

2020年3月24日

新型コロナウイルス感染拡大への対応と影響について(その2)

株式会社ヤクルト本社(社長 根岸 孝成)は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、2020年3月24日時点での、日本国内の対応および国内事業への影響と中華人民共和国(以下、中国)を始めとした海外における弊社事業への影響と支援活動につきましてお知らせいたします。

なお、当リリースは2020年3月3日にお知らせした内容の続報となります。

記

1. 国内における対応

ヤクルト本社においては、引き続き、時差出勤および一部在宅勤務を実施し、従事者および同居家族に感染もしくは感染の可能性がみられる場合は自宅待機とします。また、国内工場や研究所の見学中止、不急の会議および出張(国内外問わず)を休止しています。

加えて、マスク33万枚を、ヤクルトレディなどがお客さまへ訪問する際に着用できるようにヤクルトグループ各社に提供しました。

2. 国内事業への影響

2020年2月度の乳製品1日当たりの売上数量合計は、「New ヤクルト類」が前年同月比108.0%と前年を上回り、乳製品売上数量合計で前年同月比102.6%でした。

3月度の乳製品売上数量合計につきましても、前年を上回る見込みです。

商品の需給について、順調に推移していた「New ヤクルト類」がさらなる需要の拡大に生産が追いつかず、一時的に品薄の状態になりました。お客さまやお取引先さまにご迷惑をおかけしましたが、現在は改善されています。また、関東1都6県で宅配チャネルを中心に販売している「Yakult(ヤクルト)1000」が予想を上回るご注文をいただいています。そのため「ヤクルト届けてネット」による、新規ご注文の受付は中止しています。

3. 中国事業への影響と支援活動

(1) 事業への影響

2020年2月度売上数量は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けたものの、前年と比べて1割程度の落ち込みにとどまりました。

3月度の売上数量は、第3週までで、前年同月比1割増の売上数量で推移しています。

売上数量の約10%を占める宅配チャネルにおいては、3月2日より販売活動を再開いたし

ました。現在約9割のヤクルトレディが稼働しています。

また、売上数量の約90%を占める店頭チャンネルにおいては、うち売上本数構成比の約35%をしめる個人商店の多くが営業を再開し、通常に戻り始めています。同じく50%を占めるハイパーマート・スーパーマーケットにおいては、営業時間短縮等の制約はあるものの、人の動きが通常に戻り始めています。

なお、生産活動について、現在影響は出ておりません。

(2) 支援活動

① 商品提供

前回リリース分(2020年3月3日)に加えて、病院や老人ホームなどへ商品503千本(金額換算約1,800万円相当)を寄付しました。

4. その他海外事業所への影響など

各国において、国民への行動制限等による消費者の食品などの買いだめが見られます。「ヤクルト」は他の食品や飲料と同様に生活に不可欠なものとして分類されており、生産、物流に関して新型コロナウイルスの大きな影響を受けていません。

(1) アジア地区※¹

アジア地区においては、インドネシア、フィリピン、ベトナム、マレーシアなどで事業を展開しています。一部地域の「都市封鎖」や「活動制限令」により、社員の出勤や、ヤクルトレディの活動が制限されています。しかし、売上数量についてはその影響を受けることなく推移しています。

(2) 米州地区※²

アメリカでは、非常事態の宣言や一部地域では外出禁止令が出されていますが、いまのところ前年を上回る売上数量で推移しています。

(3) 欧州地区※³

オランダに生産工場があり、欧州13か国に商品を提供しています。現時点では工場は通常どおり稼働しており、各国への商品供給も継続されています。欧州全体の売上数量は前年を上回っています。

なお、今後各国の感染の状況や、政府の対応などにより、状況が変わる可能性があります。

以上

※1 アジア地区

台湾、タイ、韓国、フィリピン、シンガポール、ブルネイ、インドネシア、マレーシア、ベトナム、インド、アラブ首長国連邦、オマーン、バーレーン、カタール、クウェート、ミャンマー

※2 米州地区

ブラジル、メキシコ、ウルグアイ、アメリカ、カナダ、ベリーズ

※3 欧州地区

オランダ、ベルギー、フランス、イギリス、ドイツ、ルクセンブルク、スペイン、アイルランド、オーストリア、イタリア、マルタ、スイス、デンマーク

以 上